

平成21年度事業報告書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

昨年度は世界同時不況および円高による外需の急激な悪化に加え、内需も深く落ち込んだことから、翻訳業界を取り巻く環境もより一層厳しくなってきた。

日本翻訳連盟は、翻訳業界の中核的な組織であることを自覚し、翻訳業界の社会的地位の向上および社会への貢献を図り、また翻訳業界内における情報の流れの円滑化を図るために以下の3項目を重点施策とした。

- (1) 当連盟および翻訳業界の認知度を高め、翻訳業界の指導および地位向上
- (2) JTF<ほんやく検定>の改善と一層の普及
- (3) ウェブサイトの改善およびコンテンツの見直しによる広範囲な有益情報の提供、翻訳会社と翻訳者間の情報の流れの円滑化

また、これらの活動を通じて日本翻訳連盟の事業内容を拡充させた結果、今年度も会員数は対前年比で10%増加することができた。

1. 翻訳事業に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

1) 翻訳業界の調査

【実施実績】平成20年度に実施した調査結果をベースに当連盟ウェブサイトにPDF版を掲載した。完全版は会員専用とし、ダイジェスト版は一般用として公開した。また、経済産業省が進めている「サービス産業の生産性とサービス品質の向上」のための調査事業に参画した。クライアントに向けたアンケート調査を実施するために、調査項目の評価について分析・検討し、翻訳会社に対する評価システムの構築に協力した。

【評価】今年度は調査内容および調査方法の見直し、回答率の向上について検討した。スケジュールおよび予算上の問題で今年度の調査は見送りとなった。次年度は第4回目の業界調査を実施したい。

【担当】翻訳業界調査委員会（委員長：東郁男会長）

2) スタイルガイドの調査・研究

【実施実績】

- ・「スタイルガイド標準化推進フォーラム（SINAPS Forum）」*の構築に着手した。
- ・スタイルガイドについての情報交換を行う「アドバイザー会議」の第一回会合を開いた。

【評価】

- ・スタイルガイド標準化推進フォーラム（SINAPS Forum）を充実したWebフォーラムとして利用者に提供する準備が整った。
- ・アドバイザー会議で有意義な議論を行うことができた。

* スタイルガイド標準化推進フォーラム（SINAPS Forum）とは、翻訳の際に参考にする日本語表記のスタイルガイドラインについて、幅広く意見を募り、ディスカッションを行うためのWebフォーラム。JTF会員以外も参加可能。

【担当】標準スタイルガイド検討委員会（委員長：田中千鶴香理事）

2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催（定款第4条第2号関係）

1) JTF 翻訳環境研究会の開催

講演の題材としては、医薬関連3回、特許関連1回、金融関連1回、映像関連1回、IT関連1回、中国語関連1回、多言語戦略1回、ネイティブによる日英翻訳1回の合計10回となった。全ての講演は、翻訳者および翻訳会社の経営者・社員を対象にしたものだが、あえてターゲットを絞り込むとすると翻訳者向けが6回、翻訳会社の経営者・社員向けが4回となった。また講演者の内訳としては、翻訳会社経営者およびフリーランス翻訳者が9人、クライアントが1人となった。

【開催実績】東京の「剛堂会館」で計10回実施した。

- ・第1回 平成21年6月11日「あの手・この手の特許翻訳」
杉山範雄氏（特許翻訳者） 参加者59名
- ・第2回 平成21年7月9日「半歩抜きんでた医薬翻訳者になるために：リピートオーダーをめざして」
石原文子氏（医薬翻訳者） 参加者41名
- ・第3回 平成21年8月6日「翻訳分野のクロス化～映像翻訳と実務翻訳の相乗効果～」
山下奈々子氏（株式会社ワイズ・インフィニティ 代表取締役） 参加者37名

- ・第4回 平成21年9月10日「外国人人材問屋、ビーコスの148の多言語戦略」
金春九 (Kim Chungu) 氏 (株式会社ビーコス 代表取締役) 参加者 32名
- ・第5回 平成21年10月8日「リーマン・ショック後の金融翻訳」～厳しい環境をバネに～
松永宏昭氏 (有限会社アールスクエア 代表取締役、金融翻訳者) 参加者 45名
- ・第6回 平成21年11月12日「人材育成実践例！ 英語翻訳者と中国語翻訳者」
仲谷幸嗣氏 (株式会社トランスワード 代表取締役) 参加者 18名
- ・第7回 平成21年12月10日「IT翻訳の現状と翻訳の未来」
河野弘毅氏 (ローカリゼーション スペシャリスト、tratoool-jp(ML) 管理人) 参加者 62名
- ・第8回 平成22年1月14日「医薬翻訳：クライアント満足度を高めるために翻訳会社・翻訳者がすべきこと」
村田桂子氏 (株式会社MCL 代表取締役)、平井由里子氏 (同社 取締役) 参加者 56名
- ・第9回 平成22年2月9日「ネイティブが語る、翻訳者と翻訳会社の理想的な関係について」
リチャード・サドゥスキー氏 (日英翻訳者) 参加者 32名
- ・第10回 平成22年3月11日「製薬会社開発の翻訳最前線-求む！スタメン訳者」
加瀬淑子氏 (グラクソ・スミスクライン株式会社 開発本部 翻訳チーム リーダー) 参加者 79名

参加者合計 461名

【評価】受講者の数は概ね好調で年間総数 461名、対前年比 25%増であった (前年度 369名)。参加料収入でも対前年比 24%増となった。1回あたりの平均人数は 46名であった (前年度 37名)。全 10 回のうち 9 回は過去に講演していない方を選出し、参加者にとって新鮮で潮流にあわせた最新情報の提供に努めた。

剛堂会館は大中 2 つの教室を選べるという利点のある場所だが、教室の予約を半年以上前にしなければならぬため、講師が決まったときには教室の変更ができなくなる場合が多い。そのため今後は早めに講師を決めて、受講希望者数をできるだけ正確に予測し、機会損失を減らすよう努めたい。

環境研 DVD の販売数は約 150 枚で対前年比 44%増であった。DVD の販売益も概ね好調で対前年比 35%増となっている。DVD のタイトル数は今期末で 35 本目となり、これまでの販売総数は 600 枚を超えた。地方在住の方や当日参加が難しい方々のニーズに応えるために、今後も DVD の頒布を継続していきたい。

【担当】翻訳環境研究会企画運営委員会 (委員長：丸山均常務理事)

2) JTF 翻訳祭の開催

【開催実績】平成 21 年 11 月 20 日 (金)、東京・八丁堀のマツダホールにて、第 19 回 JTF 翻訳祭を開催した。テーマは、「今こそ、脱皮のとき！」～世界同時不況から一年、翻訳業界の進むべき道～。

<講演 1> 「翻訳会社・翻訳者に今一番求めるもの」

中村和幸氏 (日本オラクル株式会社 WPTG-Japan Senior Language Specialist)

<講演 2> 「翻訳市場の変化と翻訳会社・翻訳者が直面している課題」

井口耕二氏 (技術・実務翻訳者)

<パネルディスカッション> 「翻訳不況への対抗策」～変わらぬものと変えるべきこと～

モデレーター：丸山均氏 ((株) ジェスココーポレーション 代表取締役)

パネリスト：牧田克彦氏 ((株) リコー総合デザインセンタードキュメントデザイン室 室長)

石岡英子氏 ((株) アスカコーポレーション 代表取締役)

中村哲三氏 (YAMAGATA INTECH (株) プロジェクト推進室 室長)

時國滋夫氏 (特許翻訳者)

不況にもかかわらず過去最高の参加者数 (366 名) となり、会場は熱気にあふれていた。

<交流パーティー>

主会場から徒歩 3 分の「鉄鋼会館ニューオータニ」にて開催。新会場で開催された交流パーティーは、会場の配置もよく、多数の参加者が活発な情報交換を行っていた。参加者数は 226 名。

<翻訳プラザ>

不況の影響もあり、出展企業は昨年とほぼ同数であったが、展示・デモ参加の企業数が減少し昨年より約 10 万の収入減となった。

【評価】不況が翻訳業界に大きな影響を与えている中、情報を求める人が多かったためか、過去最高の参加者数となった。アンケートによる参加者の満足度も高かった。ただし、翻訳プラザに関しては場所的また時間的な制約もあり評価は満足がいくものではない。貴重な収入源であるため、運営方法について再検討する必要がある。

【担当】翻訳祭企画実行委員会 (委員長：川村みどり理事)

3) JTF 西日本セミナーの開催

【開催実績】大阪で計 5 回実施した。

- ・第1回 平成21年7月24日(金) 大学コンソーシアム大阪・キャンパスポート大阪
翻訳者はどこまで訳すべきか?～翻訳とリライトの境界線で医薬翻訳業務のあり方を考える～
有馬貴志氏(東京医科歯科大学 国際交流センター 日本語非常勤講師、アルパ・リエゾン株式会社
代表取締役) 参加者37名(会員17名 非会員20名)
- ・第2回 平成21年10月30日(金) 大学コンソーシアム大阪・キャンパスポート大阪
「ほんれんそう」ライブ2009年!～森口理恵さんからA評価を獲得しよう～
森口理恵氏(医薬翻訳者) 参加者29名(会員11名 非会員18名)
- ・第3回 平成21年12月4日(金) 三井ガーデンホテル大阪淀屋橋(セミナー&交流会)
「翻訳力」ステップアップⅢ～技術・実務翻訳者 井口耕二さんに訳文チェックしてもらおう♪～
井口耕二氏(技術・実務翻訳者、JTF常務理事) 参加者16名(会員9名 非会員7名)
- ・第4回 平成22年1月22日(金) 大学コンソーシアム大阪・キャンパスポート大阪
特許翻訳の現場から
倉増一氏(青山学院大学情報工学科講師、株式会社トランスプライム 代表取締役) 参加者56名
(会員14名 非会員42名)
- ・第5回 平成22年2月26日(金) 大学コンソーシアム大阪・キャンパスポート大阪
医薬翻訳の初心者を応援します!～長く仕事をするために～
北川千里氏(医薬翻訳者・通訳者) 参加者25名(会員10名 非会員15名)

参加者合計163名

【評価】開催会場を大学コンソーシアム、キャンパスポート大阪に変更した。今年度は有馬氏、倉増氏、北川氏と新しい講師を迎えた。とくに倉増氏はキャンセル待ちがでるほどの人気があった。倉増氏からはまた大阪に行きますと、お話をいただき、継続してお越しいただくことになる予定。開催場所が定まったのは良かったと思われる。収益的にも安定し、次事業年度においても継続使用を検討している。

【担当】西日本委員会(委員長:東郁男会長)

4) 翻訳支援ツールの活用方法についての説明会の開催等

【実施実績】本年度は、翻訳支援ツール説明会を計3回開催した。

- ・第1回 平成21年7月21日(火)
[法人ユーザー対象]「SDL Trados Studio 2009 Professional」の紹介/SDL Trados Technologies
参加者数33名(会員22名 非会員11名)
- ・第2回 平成21年7月28日(火)
[個人ユーザー対象]「SDL Trados Studio 2009 Freelance」の紹介/SDL Trados Technologies
参加者数32名(会員14名 非会員18名)
- ・第3回 平成10月27日(火)
TMツール「Transit NXT(ネクスト)」の紹介/株式会社シュタール ジャパン
参加者数32名(会員15名 非会員17名)
参加者合計97名(会員51名 非会員46名)

【評価】年3回開催とはなったが第1回、2回は同ソフトの説明会を法人向け、個人向けと分けて行ったため、実質的にはやはり2回開催に近い実績にとどまった。各回とも会場定員30名を超える申込があり、関心の高さがうかがえる。全参加者中の非会員の割合が高くほぼ半数近いことも特徴的で、支援ツール説明会が連盟会員はもちろん、広く公的な利益に寄与するという側面を持った活動になっていることがいえると思われる。今後、法人ユーザー、個人ユーザーそれぞれからの興味・関心・必要性をリサーチしつつ、並行して支援ツール提供企業の新製品情報なども適宜集まるような流れを恒久化して、引き続き定期的な説明会の開催を実現したい。そのために、連盟会員からは具体的な「翻訳支援ツールに関わる知りたい情報」の吸い上げ、企業からは「新製品情報・プレゼン希望の意向」を提供いただけるような仕組みが望まれる。

【担当】翻訳支援ツール委員会(委員長:飛田豊彦)

3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施(定款第4条第3号関係)

1) JTF<ほんやく検定>の実施

【実施実績】第51回を平成21年7月、第52回を平成22年2月に以下の通り実施した。また、平成21年11月に開催された第19回JTF翻訳祭において、「検定1級合格者の表彰式」を行った。1級合格者19名が出席した。

- ・第51回:平成21年7月25日(土) 受験者数688名
- ・第52回:平成22年2月27日(土) 受験者数660名 合計1,348名

受験方法：インターネット受験

科目：(基礎レベル) 5級/4級 (実用レベル) 英日翻訳/日英翻訳

実用レベルの選択分野：(1) 政経・社会 (2) 科学技術 (3) 情報処理 (4) 医学・薬学 (5) 金融・証券 (6) 特許

【評価】21年度より従来の会場受験を廃止してインターネット受験に一本化。受験者総数は1,348名で前年度比3%ダウンした(前年度1,383名)。経済不況の影響からか併願受験者数の減少が見られる。反省材料として、前年度までの会場受験の人達をインターネット受験にうまく移せなかった点があげられる。

第19回JTF翻訳祭にて平成21年度の「検定1級合格者の表彰式」を開催した。業界関係者に向けほんやく検定の認知度向上に寄与した。出席した19名の合格者は、翻訳会社の担当者と積極的に名刺交換し、親睦を深めた。

【担当】ほんやく検定委員会(委員長：植田忠志理事)

2) JTF<ほんやく検定>問題・解説集の刊行

【刊行実績】JTF<ほんやく検定>各回につき実用レベルの全分野・全科目と基礎レベルの問題・訳例・解説で構成される「問題・解説集」を以下の通り編集刊行した。DMやホームページ等によるPRが奏効し、「問題集・解説集」の需要は年々増加している。販売部数は約1,500部となっている(前年度約1,250部)。

第50回：平成21年5月刊行/第51回：平成21年10月刊行

【評価】毎回受験希望者・受験者から購読の問合せも数多く寄せられ、翻訳力向上のための有益な媒体となっている。

【担当】ほんやく検定委員会(委員長：植田忠志理事)

4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供(定款第4条第4号関係)

1) JTF日本翻訳ジャーナルの編集発行

【発行実績】平成21年4月以降、以下のとおり計6回発行した。

第1回：5/6月号 平成21年5月

第2回：7/8月号 平成21年7月

第3回：9/10月号 平成21年9月

第4回：11/12月号 平成21年11月

第5回：1/2月号 平成22年1月

第6回：3/4月号 平成22年3月

【評価】翻訳祭、翻訳環境研究会、西日本セミナーなどの事業活動に関する予告と報告、および「(法人・個人)会員プロフィール」、「JTFニューフェイス」などの会員情報を提供したほか、翻訳者向けの学習記事「ほんれんそう」、翻訳に関連する図書やツールの紹介、会員が執筆した図書の紹介などを通して翻訳業務に有用な情報を提供できた。最新号以外は、非会員でもJTFウェブサイトからダウンロード可能としている。また、ジャーナル最新号への広告主は、JTFウェブサイトのジャーナル・ページにバナー広告を掲載できることとした。

【担当】ジャーナル編集委員会(委員長：野上員生副会長)

2) JTFホームページ運用展開

【実施実績】下記の事業活動を行った。

(1) JTF活動の広報活動

当連盟の公式サイトを企画運営し、幅広い業界関係者に向けて各事業の広報活動を積極的に行った。

(2) 「会員マイページ」の新設

会員サービスの向上を図り、JTF公式サイトに会員マイページを新設し、サイトのリニューアルを行った。会員それぞれにID/パスワードを発給し、会員が直接登録データを更新できるシステムを導入した。

(3) 「翻訳プール(求人情報)」の拡充

会員間の仕事マッチングを促進するために、会員マイページ内に翻訳プールを移設した。法人会員は、会員マイページから従来よりも容易に求人情報を登録・編集できるようになった。さらにユーザーの利便性を向上させるために、翻訳プールに職種・言語・分野別に絞り込み検索ができる機能を追加した。

(4) 求職サイトの拡充

個人会員の仕事拡大を促進するために、会員マイページ内に「翻訳者リスト」の登録・編集機能を追加した。

(5) 管理ツールの導入

会員情報、各種セミナー、検定合格者リストなどに管理ツールを導入した。これまで更新作業は外部の制作会社に依頼していたが、管理ツールの導入により事務局から直接更新できるようになった。

(6) 広告媒体としての存在価値向上

トップページ・ジャーナルページに設置したバナー広告コーナーは、法人企業にとって魅力的な広告メディアとして機能した。

(7) リンクを利用した外部ネットワークの一層の充実

外部からのリンクを増やす目的として、JTF バナーおよび翻訳祭バナーを作成し、会員関係者にリンク設置の依頼を呼びかけた。

【評価】今年度は会員マイページの新設を重点施策として取り組み、会員サービスの強化に努めた。ウェブサイトの情報活動によって、各種セミナー・イベントの集客や入会促進に高い効果が得られた。英文版の作成は、会員マイページなどの制作を優先したため、今期も実現に至らず、次年度に持ち越しとなった。バナー広告収入は、不況の影響もあり、前年に比べて収益が10%ほど減少となった。

【担当】ホームページ委員会（委員長：阿部淳一理事）

3) 組織強化の推進

【実施実績】新規入会促進および会員間ネットワークの強化に努めた。業界関係者に向けて、各事業の広報活動を実施し、当連盟の認知度向上を図った。

(1) ジャーナル/メーリングリスト/ホームページなど情報発信機能が発揮される委員会活動と、翻訳祭、翻訳環境研究会、西日本セミナーなどの研修会・講演会およびほんやく検定が相乗効果を生むよう、連携強化を進めた。

(2) 各委員会事業を連携させ、業界内の組織強化と当連盟のPRを推進した。

(3) 入会キャンペーンを実施し、新規入会を促進させた。平成21年度末の会員数は532となり、対前年比で10%増加した。

(4) 公益法人制度改革に対応するために、今後の連盟の体制および事業運営方法について具体的検討および作業を進めた。

【評価】世界同時不況の影響によって会員数やセミナー参加者の減少が危惧されたが、各事業活動の強化および入会促進により、会員数、セミナー参加者とも昨年以上の結果を出すことができた。

当連盟の認知度向上、新規入会者の獲得および翻訳業界内外のネットワークの拡大を図ることができた。

公益法人制度改革については、公益社団法人・一般社団法人のどちらかに認可申請するか結論に至らず、次年度に持ち越しとなった。

【担当】組織委員会（委員長：東郁男会長）

4) 翻訳業務取引上のトラブル防止

【実施実績】Google社が6月9日に公開した翻訳ツール Google Translator Toolkit の使用に関する注意文を作成し、弁護士の監修を経て7月13日に会員に配布した。8月18日には、翻訳サービス提供時の過失・怠慢により顧客に損害を与えた場合の賠償責任をカバーする保険（専門職業賠償責任保険/E&O保険）の必要性を探るために会員にアンケートを実施した。また、9月1日に、JTF個人会員の翻訳者から非会員の渋谷区の通訳翻訳会社について、翻訳料未払いの相談があった。被害額は4人で200万円ほど。翻訳者は「悪意ではなく、資金繰りの関係と思われるので様子を見たい。」と言っていたが、その後「満額ではないが、何とか支払ってもらえるようになった。」と連絡が入ったため、この件は終了とした。

【評価】Google社の翻訳ツールへの注意文の作成や専門職業賠償責任保険など、トラブル予防にも足を踏み入れた。リーマンショック後の不況の中、個人、法人会員ともに、特に情報技術（IT）系のクライアントからの翻訳価格の値下げ要請や発注量の減少に直面している。悪質な未払いなどの訴えは寄せられなかったが、懸念の多い一年だった。

【担当】トラブル防止委員会（委員長：星田和恵専務理事）

5. 翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調（定款第4条第5号関係）

【実施実績】電子情報技術産業協会、日本工業英語協会、アジア太平洋機械翻訳協会、テクニカルコミュニケーター協会、日本翻訳者協会（JAT）の総会、セミナー・交流会等に出席し、関連団体との交流促進を図った。

【評価】当連盟事業に協力の意向をもつ国内外の関連団体と緊密な連携活動や連絡協調推進に努めた。とくにテクニカルコミュニケーター協会には翻訳祭の企画・運営に多大なるご協力をいただいた。

【担当】組織委員会（委員長：東郁男会長）

【会員数】

	期 首	期 末
法 人 会 員	140	146
個 人 会 員	340	383
賛 助 会 員	3	3
合 計	483	532